

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」	ユニット名	B棟
所在地	宮崎延岡市土々呂町5丁目2565-1		
自己評価作成日	令和2年6月22日	評価結果市町村受理日	令和2年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中にあっても、自動車学校の様子や日豊本線、国道10号線の様子、冬にはみかんが山になるのかな様子を眼下に眺める事ができ、散歩する人が多く行きかう等、日々生活をしているという実感が持てます。地域住民の方々とは、ホームの行事や地域のお祭り、避難訓練や研修の講師を担って頂くなど関わる機会があります。また地元の商店から食材を購入し、メニューの中に取り入れており、普段から手作りで美味しい家庭的な食事を味わって頂いています。幼稚園との交流会を通じて子どもと触れ合う機会もあり、毎日の生活の中にも楽しみもあります。高台にあることから安全面についても優れており、飲用水や食べ物も備蓄し、災害に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間で話し合い、A棟B棟で各棟の理念を作成し、その理念を共有して実践に繋げている。運営推進会議の参加者から出された意見や提案をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。職員は、希望の研修を受講でき実践に繋げるよう努めている。地域との関係も大切にして交流を図っている。自己評価は職員全員で取り組み、振り返りの機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間の話し合いで簡潔で分かりやすい事業所独自のケア目標を考案し、職員室に掲示して意識付けを図っている。	職員で話し合い、作成した理念を共有し、実践につなげるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕涼み会に地域住民の方を招待している。幼稚園交流会を定期的に行っている。介護・看護の実習生を受け入れ、地域との交流が行われている。	実習生の受け入れやホームの行事に地域住民を招待し交流している。地域の方が利用者の顔を覚えており、利用者の見守りにつながるなど地域とつながりながら暮らせるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方や利用申し込み時にホームを案内しグループホームでの生活や認知症についての支援方法等をお伝えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の状況や行事・事故報告・研修などを報告し意見やアドバイスを頂いている。職員に周知できるよう議事録にて回覧し改善を図っている。	運営推進会議で出された意見や要望をサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議に参加して頂き、ホームの取り組みを報告し相談や情報交換・提供ができる関係が築かれている。	運営推進会議でホームの状況を報告したり、身体拘束についても相談するなど、市の担当者との協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を掲げ、勉強会や外部研修を通じ職員全員が知識を深め拘束をしないケアを心がけている。玄関の施錠に関しては、ホームが2階の為、離設により転倒事故になる恐れがあり市や家族に承諾を得行っている。	拘束委員会は3か月ごとに開催され、身体拘束について定期的に勉強会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけでなく心理的な虐待につなからないう意識してケアを行っている。入浴の際は、全身チェックを行い、痣等ないか確認を行い介護方法に落ち度は無いか注意をはらいケアカンファレンスにて共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用されている方はいない。職員室には関連書籍を閲覧できるように置いてあり、勉強会や研修にて制度について理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は重要事項を説明し理解した上で契約を交わしている。又、要望や疑問点・不安に感じた事や何か分からない事があれば聞いて頂きたい旨は伝え説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会や運営推進会を開催し意見交換の機会を設けている。面会時には話し易い関係を築き意見要望を前向きに検討し、サービス向上に努めている。	来訪時や電話で家族が意見や要望を述べることができるよう配慮した声かけに努めている。利用者からも食事に関する希望が出される事があり対応するなど意見や要望を反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やユニット会議を各棟で月1回開催し、業務の意見や提案の機会を持つよう行っている。	職員はユニット会議などで意見や要望を伝え、利用者支援についてもいつでも管理者に相談するなど、職員の意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修へ参加したり、賃格取得を推進している。以前に比べ介護度が上がっており介護量も増え精神的や身体的に負荷がかかっている。人との関わりを大切にし、より良いケアを目指すことに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回覧ファイルに法人内外の研修案内があり、自主的にも研修に行く事が出来ている。又、職員会議等で研修内容の報告・発表の場があり勉強する機会をもうけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修に参加する事で同業者との交流する機会を持って、意見交換した事を日頃の業務の参考にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを表情や言葉や態度等から読み取りながら、初段階では、その人なりを知ることを大事にし話しやすい環境や安心できる雰囲気を中心掛けた人間関係を築くことに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている思いを何でも話せる関係作りが築けるように努め、情報を共有しながら過去のエピソードを問題点に焦点を当てられるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えている思いや必要な支援を話しの中から汲み取りながらサービスに繋げ、他施設をも含めた本人にあった場所での支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有する空間や場所で、一緒に生活をしているという意識をもち、楽しさや喜びを分かち合いながら必要な知識や作業を互いに助けあえる関係を築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時には、近況報告をしながら生活の中からの気づきや変化を伝え、家族の絆を良好に繋げながら病院受診や外出支援の協力をお願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や故郷めぐりを行っている。家族から情報や希望を聞きながら懐かしい人や場所に触れる機会を作れるよう努めている。	ホームから家族に電話をする時、利用者と家族が話ができるよう支援している。自宅周辺や馴染みの場所へのドライブしたり、地元の知人の訪問も受け入れ、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や感情の変化を理解したうえで、作業等の場を通して利用者同士が関わり合い支え合えるような関係を構築できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同建物に有料老人ホームがあり転居先として契約が終了した後も顔を合わせる機会もあり散歩時に様子伺うこともあり家族とも連携が取れている。退去後も相談があれば対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に作業をしながら言葉や態度また、潜在している思いや意向をくみ取れるよう努めている。生活歴や家族の情報を得ながら1人ひとりの支援に役立てるようコミュニケーションルーツにしている。	利用者に一人ひとりに合わせた声かけを行い、思いや意向を把握している。困難な場合は、日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から情報収集すると共にご本人との普段の会話の中から生活歴を把握し日常の支援に繋げている。また得られた情報を共有し統一したケアに繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録の活用し職員で観察での気づきを話しあいながら本人のできない事でなく、できる事に焦点をあてながら生きがいに繋がる支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から希望を聞きながら介護計画を作成している。ユニット会議で状態確認や課題を職員間で話し合い統一した支援ができるよう努めている。	短期目標を個別記録に記入し、介護計画と日々の記録の連動が図られている。3か月ごとにモニタリングを行ない、必要時には見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元に気づきや問題点など分かりやすいように記録に残している。常に職員間で情報共有し、個人の身体状態変化について支援を変更し介護計画を見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて訪問歯科を利用。他科受診時は、福祉タクシーや場合により家政婦の要請を行い利用者のニーズに合わせ支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店から食材を注文している。また、朝刊の新聞を継続して購読できるよう配達の変更をしている。地域の祭りの際には、御神輿が利用者の健康祈願のお祓いに来てくれたりする。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を継続するか協力医に変更されるか説明を決めて頂いている。外来受診を家族同伴の下としているが、場合により職員対応や同行にて支援をしている。	協力医の訪問診療を定期的を受けている。協力医以外のかかりつけ医の受診は家族が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の既往歴や内服薬を把握している看護師が週1回来訪。主な観察点を診てもらった上で、日々の心身状態や情報、気づきを伝え指示を受け適切な受診や看護が受けれるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、入院中は相談員と連携を取りながら、面会を行う際に家族や医療スタッフに状態を伺う事で退院を円滑に行っている。また、必要に応じ転居の支援を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に契約を交わす際、重度化・終末期への対応について説明し、今の段階での看取りについての意向を確認している。ホームで看取りを経験した事があり、家族や医療・スタッフで連携し段階ごとに終末期の対応を相談し安心して支援ができる体制を築けている。	重度化や終末期に向けた方針は同意書で確認し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて職員室にマニュアル・書籍を設置し閲覧できるようにしている。また、発生時には医療機関や保険者に速やかに連絡を行い、対応できるよう社内研修でも定期的に学ぶ機会を持っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や夜間想定で、年2回避難訓練を行っている。消防団に協力を頂きながら利用者も一緒に消火器の使い方や安全な避難方法を確認し、スプリンクラーの設置、非常食・水の確保を行っている。	定期的に避難訓練を行っている。隣接する土地に山の斜面があるが、職員が定期的に観察し、安全対策に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に丁寧語にて言葉掛けをしているが、親しみをこめて方言を使う事もある。その方に合った声掛けをし、プライドや自主性・性格に配慮・工夫しトイレ案内や入室時の声掛けにも尊厳と権利を守る言葉掛けを心掛けている。	基本的には丁寧語にて言葉掛けをしているが、親しみをこめて方言を使う事もある。その方に合った声掛けをし、プライドや自主性・性格に配慮・工夫しトイレ案内や入室時の声掛けにも尊厳と権利を守る言葉掛けを心掛けている。	接遇マナー研修を行い、一人ひとりの尊重と、プライバシーの確保を常に意識し、スピーチロック(言葉による身体拘束)にならないよう言葉かけに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、ご本人の気持ち考えが有る行動になるように選択肢を提供して支援を行っている。言語的コミュニケーションが取りづらい方は、表情や感情に注意し思いをくみ取れるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や、利用者の都合を優先する事もあるが、1人1人の希望に沿えるように、歌や散歩勧めたり又自分のペースで過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や外出時の更衣は同じ物に揃わないように本人の意思で選択して頂きながら好みの物を選んで。化粧し外出される方や散髪された方を褒めながら支援している。自分らしい装いができるように支援			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを踏まえ、献立を作成。入居者もできる範囲での役割を担いながら調理や片付けを行っている。家庭的な味を意識しながら季節を感じられる食材を使い、その方に合った食事形態(刻み・ミキサー)で提供している。	職員と利用者が一緒に準備し、同席して食事をし、片付けを行ったり、職員が誕生日の利用者を連れて外食するなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、足りない時は補食等で栄養の確保を行っている。水分等も居室に水筒を置き量を確保したり飲み物の種類を変える等工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし介助が必要な方は口腔ケアを行っている。義歯使用の方は、夕食後に預かり再度清掃し週1回はポリドントを行い清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ案内だけでなく、排泄パターンを把握し、言動・行動・動作からトイレのタイミングを察知し、食事水分摂取量等も配慮し出来るだけトイレで排泄し汚染に繋がらないよう支援している。必要に応じトイレを使用。	オムツ、リハビリパンツ、尿とりパットなど利用者一人ひとりの状態に応じた対応に努めている。日中はトイレでの排せつを促し自立に向けた支援を行っている。ポータブルトイレも活用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動・腹部マッサージを行ったり、ゆっくりトイレに座って頂くよう声掛けしている。食物繊維の多く含まれている食材の使用・ココナッツオイル(個人用)や乳飲料を取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を行いたいが、週5日午後からの職員側都合の入浴の流れになっている。体調や気分に合わせて、日や時間変更したりシャワー浴・清拭を行ったりし対応している。	利用者は週に2~3回入浴日を設定している。ゆっくりコミュニケーションができるよう1日3人ずつ入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースのソファで自由に休息を取って頂き、夜間は居室の空調や寝具の状態、入眠状況の確認を行っている。眠れない方には、フロアでテレビ視聴や傾聴対応をし安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報にていつでも処方された薬の内容を確認している。服薬の際は、ペアスタップで声を出し確認しながら誤薬に注意している。変更時は、申し送りにて報告し状態観察を行い看護師と連携を取っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み、テーブル拭き等個々の能力に合わせて行って頂いている。又、ゲームや歌等を職員とともに笑って過ごせる時間を持っている。希望するお菓子等の定期的な差し入れを家族に依頼している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ感染予防対策の為、外出は控えている。以前は、御家族での外出や外食の希望を受け、ご協力を頂きながら支援を行い、ホームでもドライブや故郷巡りを行い気分転換ができるよう支援している。	行事に出かけたり、園庭散歩、自宅周辺や馴染みの場所へのドライブなどの外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に財布を預かっている。使用する際は、家族に目的や金額を伝え出納長に記入し確認を頂いている。外出時に欲しい物を購入する際に使用している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、家族に自由に連絡し家族から気になる点があれば折り返し電話を頂いている。母の日、父の日や宅配時に手紙を家族より頂きながら、絆が繋げるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節感のある装飾をし、料理の音や匂いを感じたり、談話やテレビ観賞を楽しめたりできるようソファや椅子を設置し、好きな場所で過ごし寛げる空間に努めている。	共用空間はテーブルや椅子、ソファが配置され利用者がくつろいでゆっくり過ごせるよう工夫されている。ソファの肘掛の破損箇所は、安全に使用できるよう職員が補修を行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し、1人ひとりが自由に過ごして頂ける場所を設けている。また、玄関が近い場所にソファを置き、外出時や散歩後のちょっとした休息時に利用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの布団や衣類、写真、テレビや宗教的な物等を持って来て頂く事で、入居時の不安を軽減できるようにしている。また、本人の希望により趣味等の物を増やしていくことで快適になるよう支援している。	馴染みの家具や品物を居室で使えるよう配置されている。利用者の状態に応じてベッドの高さを調整して居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方が福祉用具を使用しても居室やフロア内で安心して通れる間隔を広く取り、移動が安全にできるよう努めている。			